

項目	内容
名称	カユプテ油 [英]Cajeput Oil [学名]Melaleuca leucadendra、Melaleuca leucadendron
概要	<p>カユプテ油は、メラレウカ・レウカデンドラ (Melaleuca leucadendra)、メラレウカ・クィンクエネルヴィア (Melaleuca quinquenervia) の葉と小枝から得られた精油。メラレウカ・レウカデンドラ、メラレウカ・クィンクエネルヴィアは、東南アジア、オーストラリア熱帯地域が原産のフトモモ科植物で、高さ15~40 m程度に生長する。カユプテ油は、香料として香粧品や食品全般に、また駆虫剤として利用されている。</p>  <p>写真提供: 広島大 医歯薬 生薬学研究室 カユプテ油の原植物</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分 「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料) 」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料) 」にも該当しない。</p> <p>■ 海外情報 ・米国では、GRASに該当する。</p>
成分の特性・品質	

<p>主な成分・性質</p>	<p>・シネオール、α-テルピネオール、α-ピネン、リナロール、テルピネン-4-オール、リモネン、ビリジフロロールなどを含む (23) (58) (101) (PMID:1293213) (PMID:20860029)。</p> <p>・葉に含まれる半揮発性有機化合物を分析したところ、発がん物質であるポリ塩化ジベンゾジオキシン (PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン (PCDFs)、ポリ塩化ビフェニル (PCBs)、多環芳香族炭化水素 (PAHs) が検出された (PMID:11372834)。</p>
<p>分析法</p>	<p>・葉から抽出した油に含まれる揮発性芳香成分 (シネオール、ビリジフロロール、α-テルピネオール、α-ピネン、リモネン、など) をGCおよびGC-MSで分析した報告がある (PMID:20860029)。</p>
有効性	
<p>循環器・呼吸器</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>消化系・肝臓</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>糖尿病・内分泌</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>ヒト 生殖・泌尿器</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>で 脳・神経・感覚器</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>の 免疫・がん・炎症</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>評 骨・筋肉</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>価 発育・成長</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>肥満</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>その他</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>参考文献 試験管内・動物他での 情報 評価 報</p>	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p>

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(23) 天然食品・薬品・化粧品的事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳
(29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館
(58) The Complete German Commission E Monographs
(80) 植物レファレンス事典 日外アソシエーツ
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
(101) PDR for Herbal Medicines Fourth Edition, Thomson
[\(PMID:1293213\) J Hyg Epidemiol Microbiol Immunol. 1992;36\(3\):303-9.](#)
[\(PMID:20860029\) Chem Biodivers. 2010 Sep;7\(9\):2281-8.](#)
[\(PMID:16414224\) J Ethnopharmacol. 2006 May 24;105\(3\):449-55.](#)
[\(PMID:11372834\) Chemosphere. 2001 May-Jun;43\(4-7\):507-15.](#)